

**第7回 松山市中心市市街地賑わい再生社会実験専門部会
議事録**

- 日 時：2016年11月17日（木）15：00～16：30
- 場 所：松山センタービル1号館 4階 第一会議室
- 出席者：別紙出席者名簿参照

次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 委員紹介

【事務局】

（開催挨拶、配布資料の確認、代理出席委員紹介）

4. 議事

【部会長】

今日は、みんなのひろばとアーバンデザインセンターが始まってちょうど2年くらいになるということで、この2年間で改めて社会実験がどういうことだったのかということ振り返りして効果検証ということをお皆さんと一緒に議論できればと思っています。

ただ、その前に部長からもお話がありましたように、さまざまところで、これらの活動が受賞ということで、賞をいただいております、特にグッドデザイン賞は、日本の中でも工業製品とか建築等で優れたデザインに与えられる賞で、それが皆様にもご参画いただいているこのみんなのひろばともぶるテラスというところの活動に与えられた、特に公民学で、大学の方々、民間の方々それと役所、三者が連携してやったということで、受賞まで至ったということをお部長さんからお報告いただいたのですが、そういったところも成果として対外的にも評価を受けていますので、少し思慮いただければと思います。

それでは、議事の1としまして、前回の意見概要と結果の報告をお事務局からよろしくお願いたします。

- (1) 前回の意見概要・結果報告

【事務局】

（今年度から、本事業の委託先が復建からUDCMとなったことを説明）

（資料説明 P.1-1）

【部会長】

ご説明をありがとうございました。前回の意見ということですので、それぞれ対応いただいているということだったかと思います。何かございますでしょうか。実際に対応していただいていると思いますが、何かありますか。

【委員】

UDCMの活動がテラスの利用者に分かりにくいというご意見がございましたので、下のスタッフと連携して情報発信していくという形で、よりUDCMの活動も市民の方に周知できつつあるのではないかと考えています。

【部会長】

では、対応も含めまして、社会実験の振り返りの中でも全体としてご説明いただきます。続きまして、社会実験の振り返りについてお願いします。

(2) 社会実験の振り返り

【事務局】

(資料説明 P2-1～P2-5)

【部会長】

ありがとうございました。利用者数の方はですね、先ほど説明がありましたように、21ヶ月の時点で、みんなのひろばが93,060人、もぶるテラスの方が38,750人、およそ10万人の人が利用されているということになります。また、様々、細かく記録もとっていただきまして、検証実験中ということで、いろんな写真が載っていますが、実に様々なイベントが行われているということで、子育て向けというのが結構多いということが分かってきています。そして24時間開放については、1週間限りでは問題がなかったということですが、継続的に検証中であるということなどが重要だと思います。また、有料のイベントでも使っているようですが、こちらの方も一応クレームがないという形ですので、試験的にもそういうことが可能であるということが浮かび上がってきているのだらうと思います。

実際にお使いになられている方々とか、少し中にいて、また違った感想ですとか「よかったら」ということもあろうと思いますので、コメントいただければと思います。

【委員】

商店街の代表というか地元としてなのですけど、一応、ひろばは、結果が出ているように、問題点というのは、商店街からはあまり出ていないのですが、隣接している人からは、ひろばに対するというか、この前委員会でも話をしたのですが、草花でも枯れたらすぐに変えて欲しい、撤去してほしいとか。間近で言えば、夜市のゴミなんかでも商店街で処理

しているのですけれども、それもすることもないといえいいのですけど、それなりにある程度はこちらの思いとしても考えてはもらいたいというような細かい意見はあります。ひろばはあってもいいのかないのかとなると、ないよりはあった方がいいと。細かいことを言うと、もともと駐車場があった方がいいというお店もあります。今は駐車場に停めに来たお客さんが遠くになってしまったので、不便になったというそういう声も多々あるにはあるのですけど、概ね多少なりともイメージアップ、例えば休むところができたといいふうな感じでお客さんがいいのではないかという声の方が多いいということにはなるかと。

【委員】

町内的には、ひろばができた、そして小さい子どもで賑やかになったという面では全然問題ないと思います。

【委員】

い。人が結構集まりますから、掃除も完全とはいかなかったりとか、確かに駐車場、車で来たい人も、当然まちですから、あります。そういう機能を逆に言うと奪ってしまった訳ですので、それでは、どういうところに拡充、用意していったらよいかというのは課題かなと思います。

確かに、子育ての関係のプログラムが多いですが、これは、UDCMとして働きかけているということなのでしょうか。自然にこういう形になっているという理解でよいのでしょうか。

【事務局】

こちらが主導しているものが多いですし、お願いしてやっていただいたものもあります。

【委員】

営業の成果とも言えるし、それだけニーズもありそうだというような感じが結果からは出ているということではないのでしょうか。ただ、そうすると、逆に他のプログラムでももう少しこんなことを増やしたらいいよということがあれば、それはそれでまた誘致というか育てていく。まあ、UDCMやUDSMでいろいろな活動をされていると思いますが、そういうものも可能性としてはあると理解してもいいのでしょうか。

【事務局】

きらりん・てくるんと3つの施設をうまく活用して、回遊性を増やしていくとか広がりをつくっていく。てくるんでやっていることと同じようなことでも両方が連携してやっていくことで、効果的にまちの中を周ってもらおうという効果が出ます。てくるんに行って両方で連携しましょうという中から事業が生まれてきていて、それをきらりんまで広げてい

って、スタンプラリーのような形のもので、まちを巡ってもらう。それによって、てくるんに来ていた人が、ここに UDCM があったのか、こんなテラスがあったのかということ初めて気付く人もいますし、それは、お互いに交流することで、広がりが出てくるとそういうふうに思います。

【部会長】

てくるんときらりんの連携って、もともと、最初は考えていなかったのですが、プログラムをつくっていく過程で、当然施設があるなら連携ということで、連携すると確かに行動的にも休む場所があって、また動く場所があって休んで連携が生まれているということだろうと思います。ありがとうございます。

【委員】

子どもが多い理由は、3 年前、スプリングフェスタのホコ天をやる時に、スプリングフェスタ自体が子ども向けだったので、そこから UDCM を巻き込んでいったところから始まったかと思います。

ハロウィンなんかも実は何年も前からずっとやっていました。今回からまちづくり会社としても、今まで UDCM と連携がとれていなかったもので、すべての企画で連携するということをしたのです。今、出ていないけれど、実は、冬のクリスマスイベントもちょうど企画していますが、それもよかったら UDCM も入ってもらえばどうですかと。昔遊びもそうですが、子ども向けにやって、思い出をこのまちでつくってもらうことが死なないまちをつくる方法だと考えています。

心配しているのは、前も言いましたけれど、どこまで人が来るかということもあるかと思うのですが、例えば、きらりんとてくるんって、UDCM よりも 10 倍の人が来ているのです。100 万人以上、年間でいけばもっとですが、言い方を変えると、きらりんはカウンターをつけているので、誰でも見られるようになっているのですが、月間で普通の月で 12000 人。夜市の 7 月で 16000 人なのです。だから、結構そこそこの人が来ていて、てくるんはもっと人が来ていて、そこでもいろいろと企画する中で、まちづくり会社の施策としてお金をいろいろ使っているのです。その時に、まちなか Map もつくっていて、掲示板に貼っているのですが、そういう時に、トイレが使えるだとか。きらりん・てくるん・百貨店で、ベビーカーとか車椅子とか貸出が融通できるようになります。できたら、そういう拠点の一つとして、UDCM も一緒に入ってもらいたいなという気持ちがあり、続けてきている。だから、この 1 年くらいからです。

【部会長】

はい。ありがとうございます。てくるん、きらりんが相当やっぱり地元の方が頑張られていて、活性化もしているし、そういうところの勢いというか、吸引力を UDCM でも受け止めるというか、参加させていただいて、より発展的にやっていくというようなところ

が、UDCMの中でも実を結んでいるということだろうと思っています。

【委員】

まず、こんなにたくさんのイベントがほぼ毎日のように行われているということに驚きまして。今後話に出てくるかもしれないですけど、こういうことをやっているよということを市民の方が知る機会がなかなかないということで、なかなか届いていない部分もあるんじゃないかなというところもあるので、もっと出していけばと思います。すごく興味深いことをたくさんやられているので驚きました。

【部会長】

広報しているつもりではあるのですがそこはやはり課題としてあるということだろうと思います。他、いかがでしょうか。最後またまとめて時間をとっていますので、効果検証の方の話をよろしく願いいたします。

(3) 効果検証

【事務局】

(資料説明 P3-1～P3-7)

【部会長】

はい、ありがとうございます。まあ、効果については、アンケートですので、利用されている方に聞かれていますから、ポジティブな意見が多いのは分かるのかなと思うのですが、単純に機能だけということよりも、やっぱり明るくなったとか、そういうまちのイメージづくりに寄与しているという意見が多いというのが、私などは印象に残ったという感じがします。見ていて何かありますでしょうか。

【委員】

感想なのですが、やはり女性が積極的に活用されているというようなところで、子育て世代を対象にというイベントが多いところから、20代～30代が多いことは想像されるのですが、40代、60代も同じくらいのパーセンテージということなので、そういったところへのイベントなどもこれからいろいろ見込めるのかなと思います。そうすると、商店街に賑わいを生むのだらうな、というふうに想像しますので、そういったところへの発展があるといいなと思います。

それと、やはり、明るくなったというのがすごく印象に残ったことで、非常にいい効果だと考えられるということ、それと反面で、「悪かった」にも出てきましたようにマナーの悪さというようなことが出てくるということがありましたので、少し子育て世代を対象にしたイベントが多いということですから、マナーアップのイベントも関連させてできた

らいいのかななどというように想像しながら伺わせていただきました。

【部会長】

はい、ありがとうございます。ゴミなども含めてですが、その場所をどうつくっていくかというのは、すごい難しい課題ではあるのですけれども、やはり新しいものができた時に、どうしても、そういうことの努力は必要ですね。UDCMにもそういうノウハウみたいなことが、こまめに掃除するとかそういうことで、長くちゃんとしなければいけないというようなことも、少しノウハウとしては溜まってきているのかなということも思ったりします。

【委員】

知識不足にがっかりしているところで、アンケートにあった、きりりんとか、ああいうところ、ちょっと分からないなということがあって、もしかすると、そういう人、私のような認知不足の人がもっといるのではないかな。

あと、アンケートを拝見していますと、学生の利用が多いと、もぶるテラスの利用であったので、子育て世代に今年は特化したイベントをということだったのですけれども、学生向けのイベントとか、学校とか近隣の所と協力して、若者向けのことを何かしてもよいのではないのでしょうか。その中でマナーとかを学習していくと本当に認知も広がって、その人たちが大人になったら子育て世代になってゆくという形で、どんどん小さいことからやっていくと、本当に広がるのかなということを感じました。

【委員】

以前、子どものころはまちなかって、銀天街や大街道だったのが、だんだん、エミフルなどができてきて、まちっという概念が変わってきているんだと仰っていた方がいらっしゃいましたが、やはり都市のストックというか、資産ってこのまちなかだと思っています。若い人に使ってもらって、愛着を持ってもらってということからすると、確かにそういう戦略、それはUDCMがUDSMという形で、特に学生さん等意識したプログラムを作成しているのもそうです。ただ、彼らが就職するというのも作用するし、彼らだけではないと思うので、そういうことはぜひ気をつけていけたらいいのではないかと思います。

【委員】

これができてから、通行量が確実に増えています。特に南北ですね。本当に増えていると実感しています。これが、ひいては、各個店の儲けに繋がっていると思います。これで売り上げが倍半分以上、3年前から違っていると思うのですよね。高校生がすごいおりますので。そういう、個店の儲けが少しずつ比例して増えていけばいいかなと、そのような工夫も一緒にしてみればと感じております。

【部会長】

やはり、スペースができる人と人が来て、そのスペースにお金を落としていくわけではないですが、その周辺で経済的な循環が生まれることはあることですし、最近だと都市公園の周りに保育所を置くとか、何かそのカフェみたいなものを置くと、やっぱりこう経済効果があるっていうのがありますので。今回、松山市さんから出資いただいて、駐車場を借りるという形でスペースを提供していますが、それが周辺部の店舗店舗に好影響が出ているということで。まあ、もう少し発展的に次の段階としてやっていけるかどうか。その中には、駐車場の機能なんかも足りないということが出ているので、少し組み合わせながらやっていくことはあるのかなという気がいたします。

【委員】

地元の意見で一つありまして、私は今回 UDCM が経済的に良かったと思うのは、四つ角の向かいに、店ができるのですが、これは、流動性が上がっているのですね。経済も回り始めたというか。ですから、既存のお店がどうかという見方ではなくて、周りの経済的なものが回っていくか、流動性が上がるか、ここに UDCM の価値を見出す方が本当はいいのではないかと思います。

【委員】

皆さんが仰ってくださったように、学生の利用が多いというのは、前を通っても友達とお茶してお話しているというのは、すごく多かったので、イベントに関しても子育て世代がメインと仰っていたので、「子育てだったら自分に関係ないや」と思う人がないように、せっかくアーバンデザインという括りでやられていますので、そういった企画やイベントももっと増えれば、より利用者や認知も広がるかなと思います。

【部会長】

ありがとうございます。効果検証で何かありますか。まとめて。

【委員】

個人的なことなのですが、子どもが 1 歳 6 ヶ月くらいで、なかなか私も外出しないので、ママ友がいなかったのですが、このもぶるテラスで開催された「ハッピー絵本ライブ」で、初めてママ友ができて、そのつながりで、徐々にママ友が増えてきているのですが、そういったママ友が、てくるんともぶるテラスで開催される子ども向けイベントのために、徒歩とバスで 1 時間かけてまちなかまで来ている話を何人から聞いて

います。「そんな人もいるのだ」と聞いていたのですが、この今日の資料の3-5ですかね。効果検証のところ、イベントを目的に来ているという人が、まあサンプル数が30弱なので何とも言えないのですが、多いのだなというのが、驚いたというか、やっぱりそうなのだと思います。その後、食事または買い物をするというのも、それこそ、私もママ友もそうで、やっぱり、こう来て、まちなかを歩いて楽しむというのが一つの一日の過ごし方として定着している人が多いのかなという実感と数値が一致しているところで、驚いたということです。

【部会長】

確かに、その主目的をつくれているというのは、プログラムの強度が結構強いということですし、てくるんさんやそういうところと連携して、子育てってというのは、一つプログラムに飢えているというのではないですけれども、そういうところはあるようです。また、そういう話を聞くと、公共交通との連携とか本当に大丈夫なのかとか、やはり車で足元まで多分本当は来たいですね。そうすると駐車場がないということが本当にいいのかとか。トータルでもっとこういう人たちが何に不便を感じているかみたいなことを変えていくことで、もっと来やすくなりますので、もう少しこの辺の課題は炙り出して行って、子育て支援ということをせっかく松山市さんも掲げていますので、もっと検証が必要なところかなという気は確かにいたします。ありがとうございました。よろしいでしょうか。

検証ということだと、効果はあるということは、それはそうだろうという気はするわけですが、ただ、分からない点も確かにあり、不便なところも感じておられる。やはりマナーの面とかも少しこう大目に見ながら、しかし、道路上で少し危険なこともあるかもしれないなど、この辺りはもう少しきちんと見極めて道路も今みたいな使い方をするのであれば、どういう使い方があるのか考えなければいけないし、もう少しまだ検証することがあるのかなという気がいたしました。

【事務局】

我々は常駐して、2階から見ている訳ですが、市の社会実験ですのでいつまでも続くという訳ではまったくないのですが、実感として、松山にはこういう空間があまりにもなさすぎたというのは、感じます。午前中は保育園の園児たちが遊びに来て歓声をあげているのですが、これ一つ見ても、このような空間は、これまでになかったと思いますし、ここだけではなく、2番町ですとか3番町の方にも広げていかなければならないという気がしています。

さらに、そのコストの面だけ言えば、確かに大きな費用がかかってくるけれども、これだけの空間をつくることによって、多くの人に幸せになってもらえる空間ができた訳です。これは自画自賛ではないですけれども、こういう、子育ての人に対してもいろんなイベントをやることによって、主目的になったり、買い物のついでに休む人ができて良く、こ

ういう空間は絶対に必要だと痛切に感じます。

特に土曜夜市など、まちのなかを歩かれる訳です。商店街の中に、あれだけの人が動いていたら、休む場所はないのですが。そこに、ちょっと一息いれられる空間というものが、できることによって来街者の人たちが安心するのです。ここにこういう空間があって、ちょっと休憩できる——。こういうスペースというのは、ぜひとも残して行ってほしい。それが2年間やった実感としてすごく強いものがあります。

ただ、これだけではなく、もっと増やしてもらいたい。まあ、その辺は市のコストというものがありますが、それでも必要なものはちゃんと整備していく必要があると思っています。

【部会長】

はい。ありがとうございます。

教育と医療、福祉の費用が、松山市の予算の中でも5割を超えていまして、非常に厳しい財政の中で、こういう空間がどのような意味を持ち得るのか。従前ですとハコモノということだったのですが、この事業に関しては、既存の施設の連携とかプログラムを先に考えるとか、従前とは違うやり方でやっていますが、ただ、もう少し展開していくことで、本当に子育てに困られている方とかいろんな方に応えていける、ただ、それは機能で埋め尽くすということではないということが大事ななというふうに思います。

それでは、効果検証にも続く今後の課題と取り組みについて説明をお願いします。

(4) 効果検証に基づく課題と今後の取り組み

【事務局】

(資料説明 P4-1)

【部会長】

ありがとうございました。今後の取り組みということですので、今後、この社会実験ということなのですが、もぶるテラスとまちなかひろばというものについて、今後どうしていけばいいかということについて、少し具体的な、継続すべしとか、こんなふうにしていったらどうかなど、お一方一言ずつ、いただけたらと思います。

全体的には、先ほどお話がありましたように、今まで松山になかった空間でもありますし、単純的な経済効果だけではなく、そこで良いマナーやプログラムを開発していくのもありますので、続けていくのかなという気がいたしますが、ただそうはいえ、知名度がまだ上がっていないのではないかと少しネガティブな意見とか、他の施設でも代替できるよというような話を合わせて、忌憚のないご意見を順番にとしたいと思います。

【委員】

ひろばはとてもいいものなので、あれをどうにか小学校とか別の近隣の学習などにつなげていくことができれば。授業の一環と言いますか。

【委員】

ひろばはすごく良いと思っていて、24 時間開放もされているということであり、もし、引き続きできるのであれば、常に開かれた空間がそこにあるというのは、いいのではないかと思います。場所に関しては皆さん仰った通りで、連帯ということも大事ですけど、UDCM の色をもっと出していくというのと両方で何かできればいいのではないかと思います。

【部会長】

24 時間化は、不安もあつたりします。治安等大丈夫かなど。それでもやっぱり、24 時間開いている方がいいということでしょうか。

【委員】

開いていない理由がないのではないかと思います。

【部会長】

自然体でいけば、開いているだろうと。

【委員】

公園として、一般的な公共的な場として機能するのであれば、24 時間開いている方が健全なまちだよということだという気がします。

【委員】

商店街のアンケートで変化がないということですが、当然といえば当然。一日の利用が何百人という世界であれば、例えば商店街全体から見れば、各店舗に言わせたら、変わりがないと。店舗によれば、人が集まる個店、特に物販いわゆる飲食関係の近隣の方は多少ながら売り上げがあがったとアンケートでも出ていると思うのですが、商店街の 3 丁目についても、北通りの 4 丁目に接しているところから言うと、全体的な MAX の利用者から見ても、一日の商店街を通る利用者のうちの何%が、ひろばがあつてまちに来られているかどうかは当然、店には分からない。そういう感じで、各お店に対するアピールはできないと思うので、地道にいろいろなことをやっていただっていくという感じではないでしょうか。

【部会長】

地道に続けるってなかなか大変なのですけれども、それが基本ではないかということですね。

【委員】

各お店の反応というか、なかなか難しいと思います。一つの大きなイベントを立ち上げようとするならば、いくらでも方法はあると思うのですよ。ただ、それだけでは何ともないので、毎日の積み重ねなので、今後とも松山市にも補助していただいて、ずっとこうしてもらおうということが大事ではないかと思います。

【委員】

私も将来としては、ああいう施設があったらいいなと思うのですよ。周辺店舗でみんなのひろばができたことによる影響で、地域のイメージが若干プラスになって、客層の変化とか来客数とか変わらないという点で、これ、私が見たとおりで、UDCMの性格的なものかなと思うのですが、直接的でなく、間接的に影響があるものかなという気がします。いずれにせよ、ひろばに出ている影響で、なかった方がいいのか、あった方がいいのか、どうせならばここでも聞いた方がはっきりするのかなという気はしました。

【部会長】

ありがとうございます。数字で聞いても出ないこともありますし、いっそどうですかという聞き方もありますし、何か考えてもいいかもしれませんね。ありがとうございます。

【委員】

ご自身でSNSや広告媒体を使い分けることも大切ですが、さらに宣伝していただくということで、ママブロッガーなど、有名な方たちを活用して、逆に宣伝していただくとか。例えば、このFacebookにあげてくれれば、スタンプをして、溜めればこうなりますよみたいなスタンプ制とか、商店街とも連携してクーポンをつくっていくとか、イベントに参加された方が買い物に出かけるとちょっと割引がありますよとか、なんかそういうこともしていけば、周辺店舗にも行くのかなという気がしますし、周知するのも自分たちでは、限界があるので、人を頼るというのも手かなと思います。

【部会長】

口コミというのは今でも通用しますし、今はネットの力でそれが強くなっていますので、そういうことも考えていく必要があるかなと思います。ありがとうございます。

【委員】

周知としましては、お金をかけてバンバンやるよりは、リピーターを狙った方がいいの

かなという気がします。

私が言いたいキーワードが二つありまして、「大学生」と「観光」です。自分がずっと見ていて、特に違和感を感じるのはですね、UDCM という名前があって、大学がほぼ主体となってやっているはずなのに、正直言って、大学生がいっぱいいるイメージがまったくないのです。高校生はいます。それは分かります。だけど、大学生はいるのかなというくらい、いないと思ってしまうのです。事実は違うのかもしれませんが。それって、おかしいのではないかと思うのです。大学生があそこで、いろいろ入れ替わり立ち代り、授業をすることも含めて入れ替わり立ち代りしている中に、まちに対する気付きや発見、アイデアを言ってくれたりだとか、商店街がやる施策に対して、大学生が MAP を描いてくれるだとか、私たちがビラ配りしますだとか、ボランティアしますだとかそういったことが起こることが最初イメージだったのです。先日、松大の教授と話していて、他の地域って、大都市であっても（名古屋とか東京とか）学生の方がボランティアでいろいろなことをやってくれるらしいのですよ。それは当然人づてであったり、教授のゼミとかだったりするのでしょうか、そういうことも狙いながら、イメージもあってつくったはずなのに、いないのです。

もう一つ「観光」なのですけれども、これは、国体もありますね。ゆるキャラグランプリは終わってしまったのですが、あの立地とあれだけお金をかけて整備をしているという意味では、当然、お子さんとか住んでいる人に対するサービスであったり、環境を見せるという整備でもいいのですけれども、せっかくだから、L 字の角っこに何か拠点をつくってですね。何が言いたいかと言いますと、あそこ、長町湊町は子規が生まれたまちなのです。今度提案しに行くのですが、風呂吹き大根のお接待を圓光寺で 4 丁目もやっているのです、これも一緒に関わってやろうと。松大の方や NHK の方などが関わってきていたのですが、本腰いれてやろうと。そういう文化的なことを含めての観光です。

とにかくキーワードが「大学生」と「観光」。使えるものは、あそこをバスが停留できないかもしれませんが、路面に面しているなら、乗り付けてしまえばというのが一つあるのです。これは大変かもしれませんが。大学という意味では、大学には院生もいますので理系の人ならいろんな実験や研究をやっていると思うのです。それをせっかくだから、子どもたちや周りの人が見える形でやるとか、そこに派生しての遊具をつくるとか。なんかそういう変化がそろそろあってもいいのではないかなという気がしています。

大きなキーワードでの「大学生」と「観光」。で、今言ったように、周りの力をどんどん使って、やったほうが良いと思います。国体が来年ある訳ですよ。そこに対してのアイデアがもう既にないといけないのですよね。という意見でよろしいでしょうか。

【部会長】

はい。ありがとうございます。

大学生はどうですかね。やっている感じとしては。UDSM は相当頑張ってるやられている

ように見えますが、多分、それを超えるような効果を期待していて、でも大学生も大学生で嗜好もあつたりするから、やっぱり選ばれるまちになっているかどうかということも含めての魅力づくりが UDCM やみんなのひろばとしてももう少しできるかということですが、その辺りどうですか。

【事務局】

仰ることも分かりますが、学生が関わっていないということはありません。やっぱり UDSM でも優秀な生徒さんたちが関わってやってくれています。ただ、どうしても規模がそれほど大きくないですね。場所が場所で、やろうとしても 20 人がせいっぱいという場所に関わってくれる先生方も限定的な先生方が関わってくれて、その中で UDSM で関わって非常に熱心に地域のことを勉強しながら企画を組み立てて、実践してやっているということは、私はすごく評価しているのですけれども、他にもいろいろなイベントをする中で、例えば、声優ワークショップですとか編集ワークショップの中にも、松大や愛大の学生さんも入ってくれて、小さなイベントの中にも学生さんが入っていて、芽は出ていると思うのです。これからは、もう少し大きくさせていくために、どういうふうな展開をしていったら良いのかということを考えていかなければならないのかなと思っています。

それと、4 大学連携ということで始めているのですけれども、今、関わっていただいているのは、愛大です。これからは、松大や東雲、聖カタリナに向けてもう少しアピールするものを広げていかなければならない。学生さんたちが興味のある事業の展開が必要ではないかとは思っています。

【部会長】

先ほど、地道にという言葉が出たのですが、やはり、時間をかけて。ただ、学生の心をよく見るというか、彼らがどういう大人とコミュニケーションすることで成長するか、でもそれだけでない何かをそこで教えたりとか学んでもらいたいというのがあると思うのですが、そのところが段々こなれてきていると思いますので、頑張ってくださいとしまして。

【事務局】

社会共創学部ができて、この UDCM はいろんな人が出入りしています。大学の先生が出入りし、行政の人が、そして民間の人が、企業の人が、コンサルが、そして、商店街の人、それから市民の人、いろんな方が出入りしていて、いろんなデータをとったり、学生さんが協働していく上で、絶好の場所だと思うのです。昨日も社会共創学部の 170 名のところに協力要請にちょっと行ったのですが、あの学部の生徒さんたちをぜひ、こちらに何とか連携がとれるようなことを取り組みたいなと思っています。

【部会長】

はい。ありがとうございます。そういう意味では、いかがでしょうか。自由をお願いします。

【委員】

私どもの学生はなかなか利用させていただいていないといいますが、積極的にできていないところですので言い難いのですが、細かいところではあるのですが、学生の話を見せていただければと思います。この場が将来的には人が集い、何気なく話を交わすことができ、その中でも相談ができるようになっていければいいだろうと未来図を描くのですが、そのためには、広く利用していただくことが必要で、今やっばり窓口にいる学生なんか、キーパーソンになっていくのかなと思っています。学生がどういう動きをしているかといいますと普段の様子は知らないのですが、ちょっと入ろうかと思ってもなかなか入り難いところがまだまだあるのだらうと思いますので、そういったところで、窓口の学生が、「どうぞ」と声をかけられるようなコミュニケーション能力と言いますか、そういったところを活用しながら、学生ならば入りやすいという雰囲気をかもし出せると思いますので、そういったところで十分発揮されますと利用度も更に高まるのかな、なんて良い方の想像をしているのですけれども。以上です。

【部会長】

ありがとうございます。自由にどうぞ。

【委員】

今後のひろばとテラスのあり方を考える上では、もぶるテラスとひろばの強みとは何かということだと思えるのですけれども、このひろばとテラスに求められている役割はいろいろあると思うのです。まちなかの賑わいの提供、それから、イベント開催による賑わい創出、それらから波及する周辺への経済効果、住環境の改善等、たくさん期待されていると思うのですが、特に前二つについては、お金があればあるほどできるというところで、お金がないならば難しいというところだと思います。UDCMが併設されていることによる強みが何かということについていつも現場にいる立場から考えてみますと、一つ言えるのは、ひろばやテラスの利用者、特にNPOが利用する時に、イベントの開催を企画段階から丁寧にサポートして実現まで繋げているという、必要があれば他の人とマッチングをしたりという形で丁寧にそこの活動を支援しているというのが強みとしてあるのかなという風に感じます。そういった、まちづくり拠点としての強みというのを、ひろばとテラスの場所を通じて行うというのが今後求められているのかなと思うところで、先ほど、仰っていましたように、UDCMの色を出すというのはそういうことなのかなというのはあります。大学生があまり見られないというところは確かにずっと居るわけではないのですが、例えば、

UDSM の学生を NPO が企画を行う時に、一緒に活動させたり、一緒に協力して実施することができるのであれば、学生がまちなかで活躍できる場も増えますし、賑わいもできるのかなというように考えました。そういう意味では、UDCM との連携というのをもう少し進めていく必要があるのかなと思っています。

【部会長】

はい。ありがとうございます。事務局側で、全体を聞いていて、ございますでしょうか。

【事務局】

UDCM にも弱点がありまして、スタッフの中で、福祉に関しての専門の先生が常駐のスタッフの中にはいないのですね。もう一つ、経済に関して、スタッフがいらないのですね。この二つは弱点で、やはりいろいろな事業を展開していく中で、その部分ではできるだけ削いだ形で事業を展開している。ですから、都市整備ですとか、ハード系、あるいは、いろいろなイベントをつくっていく、賑わいのイベントとかそういう面でこれまで活動を展開してきたわけですね。その中でやはり一番コアの事業として展開してきた UDSM、これはすごく評価していて、学生が大学の中でキャンパスだけで学ぶのではなくて、実際にまちの中に出て、自分たちで事業を企画して実践してそれを達成感として、社会に出て行く。それは、人間を育てる意味でも非常に大事なことだなと思っています。そういうスクールをもっといろんな分野に増やしたいのですが、残念ながら今のスタッフでは限界がありまして、伊予市と東温市を手がけようと、そちらに一步踏み出したのですけれども、それだけでパンクしそうな状況です。このスクールというようなものが拡大できるように、いろいろな大学の先生方が協力をしてくれてまちに関わってくると非常に大きな戦力として UDCM がいろんなところに PR できるようになるのではないかなと思っているのが一つです。

それと、まちの中に、先ほども言いましたが、こうした空間があることで、いろいろな人が関わってくれる、これは財産だと思います。そういうものを、ここだけではなく、いろいろなところに移していく、ここも、時間がくれば閉鎖しなければならないのかもしれませんが、こういったことがなくなれば、その有りがたみというのが分かるのではないかと思います。どこへ次に展開していくのか、ということも考えながら UDCM をなくさないようにしていきたいと思います。一番の強みは全国にアーバンデザインセンターというところがあって、そういう所からお互いに人材を供給しあって助け合って、まちの活性化に全国が協力してくれることが非常に良いと思うのです。前に、風景づくり夏の学校というのをやりましたが、東大から早稲田、京大、いろんなところから来て、道後温泉の活性化に向けてまちで勉強して、企画にまとめてくれるというような展開があった。まさに UDCM の財産かなと思っています、こういうことが、全国でお互いが融通し合うことで、きつといい街に育っていくのではないかと思っています。

【部会長】

ありがとうございました。皆さんからご意見をいただいてですね、今後に向けては、継続していく、ただ、単に継続していくということではなく、ひろばとテラスがどういう意味を持っているかということをもっと深く考えた方がいいのだらうと思います。いつまでも税金でやっていく訳にはいかないですし、永続するものでもないけれども、なくなった時に、では何が残るのかということであったり、あるいは、地道に続けていくということで初めて育ったり、生まれたりするものがあるというものを考えながら、やはり粘って見届けていくことが大事かなと思います。

あと、大学生に関して言うと、大学生の皆さんも非常に合理的です。やはり自分たちが限られた時間の中でバイトもしなくてはいけない、勉強もしなくてはいけない、友達とも会わなくてはいけない、そういう中で、自分の時間の使い方を、先生が言ったからと言って、なかなか言うことを聞いてくれないというのものもある訳です。だから、それではどうするのかということ踏み込んで考えなければいけないところに来ています。ただ、UDSM が指し示しているのは、いいプログラムをつくれば、ちゃんと質の高い学生さんが来てくれている、では、これをどういうふうに深めるのか、輪を広げるのかということをもう一步踏み込んで大学の方々と一緒につくっていくということは大事かなという気がいたしました。

あとは、UDCM が近くにあるというのは確かにこの手のひろばとしては、他にないことですので、それができることというのが、福祉とか経済の専門家も交えながらもっと立体的に松山のまちなかをもっとよくしていこうという地元の方々の中心とした動きをどう下支えできるのかということ。下支えというと偉そうな言い方かもしれませんが、どうやって連携して、そうした方々主体のまちづくりを支援していけるのかということ考えた時にまだまだできることとかもう少し勉強したり、つなげていくとか、あるいはその中で取捨選択していかないといけないことがありそうだという印象を受けました。

ただ、外部評価としては、先ほどひろば賞ですとか、グッドデザイン賞ですとかある意味、全国で一番のひろばですよ、という賞はいただいているということですので、これは多分自信を持っていいことだと思います。全国で一番のまちなかひろばという賞はなかなか貰えるものではありません。第 1 回目の時は該当なしのところを初めてもらったということですので。陣内先生という法政大学の都市計画、建築計画で著名な方が委員長で選ばれていますが、やはり陣内先生などとお話すると松山のまちなかに忽然とああいう空間が広がっていて、地元の方々、子どもたち、いろんな方々がいるところに衝撃を受けたというか、非常に生きたひろばであると仰られていて、そういう意味では、あの空間がいい空間なんだということには自信を持っていいのかなという風には思っています。

時間をちょっと超過してしまいましたけれども、以上でまとめということで、事務局にお返しします。

5. 閉会

【事務局】

様々のご意見をいただきまして、ありがとうございます。いろいろなご意見をいただきまして、着実に日々プログラムが積み重なってきているというのは感じていますが、やはり、まだまだ課題といたしますか、検証すべき事項もまだまだあるということで、先ほど、部会長からもありましたけれども、一つ来年度も継続ということ視野に入れて検討を進めていければと思っています。そういたしましたら、以上をもちまして、第7回中心市街地賑わい再生社会実験専門部会を閉会いたします。本日は、どうも、ありがとうございました。

以上